

質問事項	回答	担当課
<p>基本目標1について</p> <p>従来からあるコンテンツだけでなく、新しい魅力の創造が必要ではないでしょうか？</p> <p>カヌー競技、合宿所の新設や、四の川の清流の利用等、何か新しい夢のある計画を作ってほしいと思います。</p> <p>移住者を増やすためには、働く場所も必要です。以前にあった自動運転の特区等、これからの技術の実験場とか、自衛隊のサバイバル訓練の提供とか、いろいろあるのでは？とりあえず、チャレンジする事が大切だと思います。</p>	<p>従来からの観光資源や地域資源に加え、新たな魅力を創造していくこと、また挑戦的な取組を行っていくことは、地域の活力を高め、将来に向けた可能性を広げるうえで非常に重要であると認識しております。</p> <p>長期総合計画は、短期的な話題性や一時的な需要にとどまらず、将来にわたって本村にとって本当に必要とされ続ける取組かどうか、また人材・財源・運営体制の面で持続可能であるかといった視点から慎重に検討することも重要であると考えております。</p> <p>そのため、新たな魅力づくりやチャレンジについては、「挑戦する姿勢」を大切にしつつも、地域の実情や将来像との整合性、既存施策との連携、長期的な効果を見極めながら、段階的かつ柔軟に検討・推進していく必要があると考えております。</p> <p>ご提案のありました、カヌー競技の合宿所整備や清流を活用した新たな取組、先端技術の実証フィールドとしての活用、防災・訓練機能の提供などは、本村の自然環境や立地特性を活かした夢のあるアイデアであり、今後の施策検討において参考とさせていただきます。</p> <p>今後も、いただいたご意見を踏まえ、地域の可能性を広げる新たな取組について検討を進めるとともに、持続可能で将来にわたり必要とされる施策となるよう、総合的な視点から計画の推進に努めてまいります。</p>	<p>企画振興課</p>
<p>基本目標2について</p> <p>小人数しかいない、子供たちだが、逆に大規模校には出来ない事もあるでしょう。海外のホームステイなどは、近隣の親御さんは、うらやましいらしい。やはり、これからは海外に出て行く時代でもあるため、北山で中小学校を過ごしたら、英語が日常会話ならできる位に徹底的に、特化してみたらどうですか？やはり、翻訳機など使わないほうが、将来役立つと思います。</p>	<p>村の英語教育としては保育園から中学校まで、通常の教育課程以上の英語授業や英会話教室を実施しています。学習発表会での発表や英語劇など、実践の機会も多く取り入れて、中学校卒業時にはほとんどの生徒が英検3級以上を取得し卒業している状況です。</p> <p>国際的な知見を広めるとともに、英語力の実践の場として海外で約2週間のホームステイ事業も実施しており、生徒たちの成長に大きく寄与していると考えています。</p> <p>今後は、インバウンド客に対する道の駅での案内など、より実践的な事業なども検討していく予定です。</p>	<p>教育委員会</p>
<p>基本目標3について</p> <p>北山村にいて、不安はやはり、救急体制です。救急車が来るまでに、40分かかり、病院に行くのに、1時間もかかる。都会に比べて、これが弱点。遠隔リモートで、救急処置の指導をしてもらえる施策はできませんか？</p>	<p>救急体制の充実、村民の生命を守るため非常に重要であると認識しています。</p> <p>救急体制については、平成28年度より救急業務を新宮消防に委託しており、救急車は熊野川出張所から出動していただいています。</p> <p>救急処置については、救急通報した際に、新宮消防による口頭での応急処置などの指導を受けることが出来ます。また、スマートフォンを使った通報では、新宮消防とURL接続することで患者の状態を映像を見ながら指導を受けることが出来る「ライブ119」が可能です。</p> <p>今後も新宮消防との連携を密にし、村民の不安を少しでも解消できるような救急体制の構築に向けて取り組んでまいります。</p>	<p>総務課</p>

質問事項	回答	担当課
<p>ページ21</p> <p>住み慣れた地域で安心して暮らし続ける事ができる村。村で生まれ、村で育ち、人生の大半を村で過ごしてきたのに最後の最後に他所で過ごすことのないように。村で穏やかに人生の終末を迎えられる様に施設の介護サービスの充実をお願いしたいです。施設入所ができて認知が進んだり、車椅子介助になったりと、介護度が進むと、他所へ移動。それは本人にも家族にも負担が大きくなります。将来、村の高齢者は最後（看取り）まで村で！！になると他県の住んでいるその家族も村に来ようかなと思う人も増えるかも知れません。介護施設のあり方を是非、お考え下さい。</p> <p>追伸：夜は寝てもらわないといけないとか、一人でトイレにいけないとダメとか....。そういう人は家で過ごします。夜間困った時に、知った顔の人の安心の声かけ。すごく大事だと思います。ヘルパーさんの夜勤体制もお考えくださると有難いです。又、地域福祉人材の確保において、人が足りないからと安易に外国人！と進むのもしっかり考えて人選も気を付けてもらいたい。今、日本で問題になっていることを北山村で取り返しのつかない事にならない様に、よく皆さんで議論してほしいです。</p>	<p>「住み慣れた村で、最期まで安心して暮らしたい」という思いは、多くの村民の村民の皆様に通ずる願いであり、村としても大切にすべき視点であると認識しております。</p> <p>現在、村の入居施設はご存知のとおり「自分のことは自分でできることが可能な方」を対象としており、常時介護や医療的ケアが必要となった場合には、制度上、他市町村の専門施設へ移らざるを得ない状況となっております。高度な介護や看取りを対応するには、24時間の介護体制・医療との連携体制・十分な専門人材の確保などが必要となり、人口規模の小さな当村においては、施設整備や運営体制の確保に課題があるのが現状です。</p> <p>「住み慣れた地域で最期まで暮せる環境づくり」は、今後の長期総合計画において重要な検討課題の一つと考えております。今後は、在宅医療や訪問介護の充実、夜間対応の支援体制の可能性、近隣市町村との広域連携なども含め、現実的な方策を検討してまいります。</p>	住民福祉課
<p>『じゃばらの振興』についてですが、記載されている施策の中には、じゃばら事業が村直営で行われていた時のような施策があるように感じます。じゃばら事業は、現在民営化されているので、行政としての村の施策は以前の直営の時とは少し違った形になっているかと思えます。例えば、衛生的な工場の管理体制を維持するとか、新商品や販路開拓を進めることなどは、今ではもう行政として直接行う施策ではないと考えます。</p> <p>民営化とはいっても村が株主なので、という見方もあるかと思いますが、株主としての要望や意見はそれとして、村営だったじゃばら事業としては委託ではなく、民営化されているということであるので、村の特産物としてのじゃばらに対しては、一般的な行政の施策として考えるのが、現在の基本的な考え方ではないかと思えます。</p> <p>つまり、現状における行政としてのじゃばら振興に対する施策としては、</p> <p>①特産物生産者への支援・応援施策及び生産拡大を推進する施策(新規農家及び後継者対策を含む)</p> <p>②特産物に関する事業者への支援・応援施策(新規事業補助を含む)</p> <p>③特産物のPR施策(ブランド力向上を含む)</p> <p>の3点ほどが大きな分類での考え方ではないかと思えます。</p>	<p>じゃばらの振興ですが、民営化以降「じゃばら北山」にてPR活動、ブランド力の向上、営業活動を実施しています。</p> <p>ただ、本計画にも記載しておりますが、村特産品「じゃばら」は地域づくりにおいて、軸となる位置づけとしており、民営化したから丸投げするといったことではなく、村としても施策の柱として官民連携で取り組むことを記載しております。</p> <p>また、①～③につきましてもじゃばらの生産から加工、販促までのあらゆる場面で官民連携して取り組みをおこなうことが効果的であると考えております。</p>	企画振興課

質問事項	回答	担当課
<p>基本目票3の 高齢者福祉の充実</p> <p>推計の中で 2050 の推計では、総人口200人を割る事態に陥っている。</p> <p>超高齢者村になることが必至なことが伺えるそこで、村として存続できるのか又は県等に管理してもらうのかを村が選択をすることが可能なのでしょうか。</p> <p>可能として(希望的観測です)超高齢者の集まりの中で存続していくことが私としては嬉しいのですが実現をしたとき現在の車社会の中で個人が医療機関等への通院等は出来ないと思われま。</p> <p>北山村社会福祉協議会では医療センターまで福祉車両として片道5000円程度の負担で利用できます、近隣の状況では熊野市は1区間300円でタクシーが使える、また十津川ではデマンドといって村民から聞いたものであるが100円で自宅から希望するところまで役場までなど乗り合わせていける(遠距離は不明)。近隣町村の高齢者対策の状況など含め調査により取り入れる施策をあれば策定されたい。</p> <p>合併もなく、管理もなく(県が本村を面倒を見るのか分からないが)単独で進んでいくことが出来ればこれほどいいことはない。</p> <p>以上の件をご検討下さい。</p> <p>民生委員の活動について</p> <p>活動には個人差がありわかりにくいと思うが、認知症が多くなりつつある現在 人との接しがないための認知が進行するケースがあると思われる、週1ぐらいの頻度で家庭訪問が地区ごとに実施できないかまた隣近所がグループ持ち回りで監視したり様子によっては関係機関に通報したり出来ないものか。</p> <p>共有する事項が問題なく出来ないものか。</p>	<p>本村は将来的に人口減少と超高齢化が進むことが見込まれており、特に移動手段の確保は重要な課題であると認識しております。</p> <p>現在、本村では熊野市方面への無料バスの運行や、社会福祉協議会が実施している、交通空白地有償運送利用料の1/2の助成などにより、高齢者の通院や日常生活の移動支援に取組んでおります。</p> <p>一方本村には、タクシー会社がないことから、今後は他自治体の事例も参考にしながら、広域等も含め予約制のデマンド交通など新たな移動支援策の可能性について検討を進めてまいります。</p> <p>民生委員の活動については、高齢化の進展に伴い、認知症の予防や早期発見のための見守り体制の充実が重要な課題であると認識しております。</p> <p>今後は、民生委員による定期的な訪問活動の充実を図り、月1回程度を目安とした見守り活動の実施を検討してまいります。また、地域住民による支え合い体制の構築についても、プライバシーや個人情報保護に十分配慮しながら、関係機関と連携し、顔の見える関係づくりを進め、安心して暮らせるむらづくりを目指します。</p>	住民福祉課
<p>長期事業計画案に提案してる計画をスピードを持って実施下さい。</p>	<p>計画初年の令和8年度から当初予算に反映させるとともに、毎年見直しをおこない進めます。</p>	企画振興課
<p>7ページの(2)歴史文化の発信について、来訪者に知ってもらう為に、村内の年間イベントや、四季での風景、村内の魅力(静かな夜、のんびり芝生、プライベートなキャンプ)北山ならではの保育所小中学校の特徴や魅力、じゃばら工場体験、ダム見学、宿泊施設など、ビデオ映像を流し北山についてもっと知ってもらい、リピーターや他の方への移住へのきっかけとなり、またその人達から情報発信して頂き北山村への興味のある方を増やす。</p>	<p>来訪者の方々に北山村の魅力をより深く知っていただくため、年間を通じたイベントや四季折々の風景、静かな夜の環境、のんびりと過ごせる芝生空間、プライベート感のあるキャンプ体験など、北山村ならではの魅力を分かりやすく発信していくことは重要であると認識しております。</p> <p>また、北山村ならではの保育所・小中学校の特色や教育環境、じゃばら加工施設での体験、ダム見学、宿泊施設など、暮らしや滞在のイメージを具体的に持っていただける情報についても、映像等を活用しながら発信することは、リピーターの増加や関係人口・移住へのきっかけづくりにつながるものと考えております。</p> <p>現在、北山村の情報発信につきましては、北山村観光協会が中心となり、SNSを活用した情報発信を行っており、フォロワー数も着実に増加しております。あわせて、北山川観光筏下りについても、今年度は来訪された一般の方々がSNS等で体験の様子を発信してくださる事例が増えていると感じており、情報の広がりを実感しております。</p> <p>今後につきましても、村・関係団体が連携しながら、北山村の自然、暮らし、学び、体験といった多様な魅力を積極的かつ継続的に発信し、北山村に興味・関心を持つ方々を増やしていけるよう取り組んでまいります。令和8年度予算では、村のPR動画の作成費用を計上しており、完成後は観光、移住等広い分野での情報発信に活用していきます。</p>	企画振興課

質問事項	回答	担当課
<p>8ページの</p> <p>(1)繁忙期の滞在時間の延長と周遊の促進について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村内の公共交通において、予約された方について、下北山のゆうゆうバスを利用し下北山に迎えに行く事や、新宮のバスの利用においては宮井大橋に迎えに行くなど、毎日出すのは難しいが予約された方については送迎するなど検討を。 <p>(2)閑散期の観光資源の開発について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春は桜の季節、綺麗な芝生があるので都会にはない自然の中でゆっくり過ごす。人混みも少なく子供連れでも過ごしやすい。100円ぐらいで大きなレジャーシートの貸し出しもしてもらえるとありがたいかもです。 ・秋にはじゃばらの取り放題、見られたり知られても大丈夫な場所での取り放題とし安全管理には気をつけて行う。 ・年中(時期により)畑でのお野菜作り体験や定期的な草引きや土作りなど、お手入れや収穫など。 ・お米の体験。 ・冬はお客さんが少ない為、プライベート空間を楽しめる、空気が澄んで夜空もきれい。 <p>(冬はお得にバンガローは金額下げる、また付属品お布団など必要な物はセットにする。暖房は完備とし寒い中でも不自由を感じさせない工夫をする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬は何度も利用できるよう、安く使いやすいというメリットから、グラウンドではサッカーなどの利用に近隣の市や町の方に利用してもらおう。(何かあっても地元に戻る為) <p>また、ステージの貸し出しも安く利用できるようにし、こちらについては沢山の地域の方に利用してもらおうなど、。</p> <p>(3)道の駅・おくとろ公園の再整備による観光拠点の強化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バンガローの整備、付属品の金額を下げる ・バンガロー周辺、バスケットゴールやスケボーができたり、バドミントンができたり色々なスポーツが出来るなど、またその道具も借りれたり選べたり。他には無いものがあれば魅力ができていきます。 ・屋根があり座るところがあれば村内の子供がいる親子やお友達とゆっくりおしゃべりできる場所となる。またキャンプに来てる人もゆっくり出来る。 ・災害時そのまま使用できるよう、キャンプ場とバーベキューハウスでの薪や鍋などの充実や住めるよう宿泊施設の増設。電気がなくても入れるお風呂。山水の水道の設置など。これら内容は各地区にあるとより良い。各地区で住民達により自立して災害を乗り越えられる場所となる。 	<p>(1)繁忙期の滞在時間の延長と周遊の促進について</p> <p>村内の公共交通につきましては、滞在時間の延長や周遊の促進に資する重要な要素であると認識しております。</p> <p>現在、奥瀬川工期工事の完成を見据え、これまで交通空白区間となっていた新宮市・田辺市本宮町方面への移手段の確保について検討を進めており、あわせて、村営バス等の既存交通サービスについても、利用状況等を踏まえた見直しを検討しています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p> <p>(2)閑散期の観光資源の開発について</p> <p>閑散期の観光資源の活用につきまして、貴重なご提案をありがとうございます。</p> <p>桜や芝生といった自然環境を生かしたレジャーシートの貸し出しにつきましては、比較的取り組みやすい施策であることから、実施方法や管理面も含め検討してまいります。</p> <p>農業体験の実施につきましては、地域資源や特産品との連携の可能性も含め、関係者の意向や実施体制を踏まえながら、実現の可否について検討してまいります。</p> <p>また、閑散期ならではの静かな環境や澄んだ空気、星空といった魅力につきましては、現在取り組んでいる星空に関する事業等も活用しながら、引き続き発信の強化に努めてまいります。</p> <p>グラウンドやステージの活用につきましては、おくとろ公園再整備計画の方向性も踏まえつつ、地域の皆様にもより利用していただける方策について検討してまいります。</p> <p>(3)道の駅・おくとろ公園の再整備による観光拠点の強化について</p> <p>公園の再整備による観光拠点の強化につきましては、バンガローの建替えを含むキャンプエリアの再整備計画案を現在作成しており、再整備の状況を踏まえながら各料金体系の見直しも実施することとしております。</p> <p>スポーツ設備や遊具の設置につきましては、現時点では再整備計画案の作成において専用スペースの整備は予定しておりませんが、隣接するグラウンドや広場の活用も含め、おくとろ公園全体としての魅力向上については今後の検討課題と考えております。</p> <p>屋根付きの休憩スペース等につきましては、現段階ではキャンプ利用者を主とした整備を基本としておりますが、滞在環境の向上という観点から、おくとろ公園全体におけるベンチや休憩施設の充実についても今後検討してまいります。</p>	<p>企画振興課</p>

質問事項	回答	担当課
<p>16ページの(1)未来を担う子どもの育成について、</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちには、村の事を知ってもらう事が将来に繋がると思う。北山村が日本で唯一の飛地の村であり、また筏下りも日本で唯一であること、特産品はじゃばらでその商品にも普段から触れていたり、また北山は田舎でバンガローがあって、夜空がキレイでと…学校で色々な体験をさせてもらう事で、当たり前北山を理解していくのだと思う。筏下りを体験したり新しいじゃばら商品を頂いたりじゃばらバーガーを作って食べたりと。自ら体験し体感した事は子供達の宝であり、自慢のできる故郷となると思う。 そう思えた時には、都会にでた際自分の感じる北山について、また知らない人に伝える事ができるのだと思う。 	<p>北山村でしかできない体験である観光筏下りや、特産品であるじゃばらについては、筏下り体験や収穫体験を行うなど、すでに取り組みを進めています。</p> <p>また、社会科や総合的な学習の時間を利用し、地域の方に協力いただきながらふるさと学習にも積極的に取り組んでいます。</p> <p>そのほかにも小さな村だからこそ体験できることを重視し、様々な交流事業や体験活動を実施しています。</p> <p>地域での取り組みには皆様のご協力が不可欠です。引き続き、子供たちのためにご協力いただきますようよろしくお願いいたします。</p>	教育委員会
<p>24ページの(1)空き家の管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> 北山村のいい所として"子は宝"と皆が大切に思っており、小さい子供(保育園児)がいると将来が安心である。その為には、北山村への魅力を持って頂いたのちには、移住の話となる為その相談窓口を明確化して頂き、空き家については以前のような子供1人につきいくらのリフォーム代をサポートするなど、大きな話題にもなり希望される方も増え移住者が増えるのではないかと思います。 	<p>北山村の魅力や「子は宝」という考え方を大切にしながら、子育て世帯が安心して暮らせる環境づくりを進めていくことは、村の将来にとって大変重要であると認識しております。</p> <p>現在、移住相談窓口の体制強化や情報発信の充実を図るとともに、移住支援策全体の見直し・強化を進めております。</p> <p>今後は、移住支援と空き家活用支援を一体的に推進し、移住者数の増加が地域の活性化につなげられるよう取り組んでまいります。</p>	企画振興課
<p>26ページの(2)地域の防災体制の強化について</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時、村内で少しでも自立出来るようお米と野菜作りを年中行い(雇用にも繋げ)普段は村内・村外で販売し、災害時そのまま使用する。(各地区にあるとより安心) 各区民会館に山の水が出る水道があると安心。 昔の人は電気の無い生活が出来ていた為災害に強かったと思われる。私たち村民もその電気を使わない家事を身につけていたら有事の際に普通に出来る事が、災害を最小限に出来るのではないかと思います。社協が実施を考えていた薪で食事を作る、この環境をぜひ作って頂けたらぜひ参加したいなと思う。身につけていざという時に自分達の事は自分達で少しでも出来たらと思う。 	<p>災害時の食料や水の確保、電源の確保等は重要であると認識しています。</p> <p>現在、村では、災害時の食料として、村内各戸に3日分の非常食を配布するとともに、各区民会館に備えた非常食と合わせて、約1週間分の食料を備蓄しているところです。</p> <p>また、災害時の飲料水については、断水時にダムや河川の水が利用できるよう、各地区に、ろ過浄水器を配備するとともに、電源についても、太陽光パネル付きポータブル電源を配備したところです。</p> <p>このように、村では、避難所装備品等の充実を図っているところではありますが、大災害時には、避難生活の長期化が危惧され、その際には、助け合い(共助)が必要になることから、地区の実情に合わせた避難訓練の実施など、地区防災力の向上に努めているところです。</p> <p>なお、昨年は、子どもたちを対象に防災キャンプを開催し、電気・ガスを使わない、薪での食事作り体験などを取り入れ、災害時にも主体的に行動できるよう、子どもたちから防災意識を高める取組みを行いました。</p> <p>今後も、村民の防災意識が高まり、自助・共助による防災力が高まるよう取り組んでまいります。</p>	総務課